

当研究室では基礎看護技術に関する研究を行っています。基礎看護技術のなかでも、採血や静脈注射など侵襲を伴う看護技術に関する介入研究を主に取り扱っているのが特徴です。看護の研究分野で侵襲を伴う介入研究はそれほど多くなく、まだまだ未開発な分野と言えます。それだけに研究テーマは多岐にわたります。

未開発な分野の研究でもっとも大切なことは発想力です。看護現場における「当たり前」「常識」に疑問を持つことで前例のない研究テーマが生まれ、そこから新たな看護技術のエビデンスにつながります。

どんな些細なことでも構いません。研究テーマのヒントは日ごろの看護業務にゴロゴロしています。何か疑問に思ったときは当研究室にお問い合わせください。

取り扱っている研究テーマ例 「当たり前」「常識」を疑う発想力

□輸液をしている上肢から採血する際に、輸液の影響を受けない採血部位とは？

右上肢がシャント、左上肢は輸液をしている患者さんがいました。このような患者さんに採血を行うときは、いつもですと足背から採血していたのですが、ある患者さんから「足からの採血は痛いから嫌」と訴えがありました。どうしようかと悩んだ結果、輸液実施部位の末梢側から採血しましたが、このことについて先輩に注意を受けました。輸液をしている上肢から採血してはいけないというのは看護師にとって「当たり前」ですね。してはいけない「当たり前」のことをしたわけですから、先輩の指導は正しいです。しかし、静脈に実施している輸液は中枢側に流れていくはずなので、輸液実施部位の末梢側から採血しても、採血管に輸液は混入しないはず。これが研究の仮説となり研究テーマになりました。このテーマについては、同じように疑問に思っている看護師さんも多く、たまに問い合わせを頂きます。

□輸液実施部位の中枢側から正確な採血データを得るための実証研究

上記の研究をしたときに輸液を流しながら輸液実施部位の中枢側から採血するとどのくらい影響するのかも調べました。当然のことですが、輸液の影響は強く、正確な採血データは得られませんでした。

輸液は一般的に前腕部から実施し、採血は肘窩部から行います。肘窩部の皮静脈は太くて採血しやすいからですね。しかし、前腕部から輸液をしている限り、肘窩部は輸液実施部位の中枢側となるため採血できません。この「当たり前」をなんとかできないものかと考え、研究を進めています。

□輸液実施部位の中枢側から血管外漏出を予防しながら採血するための基礎研究

いくら輸液実施部位の中枢側から正確な採血データを得られたとしても、採血後に高濃度の輸液が血管を穿刺した部位に流れていくことで、血管外漏出のリスクが非常に高くなります。近年、血管外漏出に対する看護ケアについての研究は進んでいますが、やはり予防が一番です。そもそも、不可抗力の血管外漏出ならまだしも、看護師が行う手技により血管外漏出を引き起こしてはいけません。看護技術の構成要素である安全・安楽を完全に犯しています。そこで、このテーマで研究を進めています。

【当研究室のキーワード】

基礎看護技術
侵襲を伴う看護技術
介入研究 実験研究



看護学領域ではまだ珍しい動物実験も積極的に取り入れています

大学院進学を希望する方へひと言

いくつになっても学ぶことって楽しい！

新しいアイデアの検討に当研究室を利用してくださればとてもうれしい！

基礎研究で新しいことを発見することはとても楽しい！

臨床で使える看護技術ができれば最高に嬉しい！

そんな体験と一緒にできればとても幸せです。お気軽にご連絡ください

